

花の履歴書 ⑬

戸部英貞 (絵・文)

ジンチョウゲ
(沈丁花) ジンチョウゲ科



正倉院に納められた御物の「沈香」に似た香りを持ち、チョウジ(クローブ)のような形の花から名付けられたジンチョウゲは、今年も強い香りをあたりに漂わせ、春の到来を告げている。

初冬の頃から直ぐにも咲きそうに蕾を膨らませたジンチョウゲは、啓蟄にも間がある寒さが残る早春に、情熱的な香りを漂わせ、花を咲かせるのはいったい誰のためなのだろうか。

中国南部が原産のこの植物、室町時代頃には、すでに日本でも栽培され、この季節になれば強い香りを漂わせ開花を知らせるが、実を付けた株を見ることがほとんど無い。

中国生まれのこの植物は、どの資料を見ても日本には雄株だけが渡来したと説明されている。そんなことから、観察会などでは、生ま

れ故郷を遠く離れた雄株が、海の彼方に思いを馳せて強い香りを放っているのだと冗談を交えて説明してきた。そんなある時、スケッチをしようとして花を解剖すると、雄蕊も雌蕊も揃っていた。慌ててあちこちの花を採って観察してみたが、どの花も両者が揃っている。結実しないジンチョウゲは、挿し木による繁殖のため、同一株から増やされたクローン個体になるので、結実しない理由は自花不適合と云う生理的な要因が原因なのかもしれない。

日本の山野にも同じ仲間、オニシバリやコシヨウノキ、カラスシキミ、ナニワズなどが自生し、どれも雌雄異株と記されているが、確認したことがないので、いつか機会があれば観察してみたいと思う。

観察会などでは、生ま

水辺の楽校
バードウォッチング



調布水辺の楽校は、4月または5月に開講式があり、1月が閉校式になります。1月19日は今年度最後のイベントとして多摩川でのバードウォッチング。

気軽に行ける多摩川で子供39名・保護者33名が、30種類以上の野鳥を観察することができました。

双眼鏡やフィールドスコップを初めて触る方なども、たくさんの野鳥を身近に見ることができて楽しんでおりました。「多摩川でもこんな多くの野鳥が見れるのですね」と感激されている方も多かったです。

水鳥などの観察は楽しいですが、水辺の安全を十分に考慮して普段から野鳥観察を楽しんでもらえればと思います。

(サポーター池ノ内伸行)



【観察された37種】

- ・カイツブリ・カンムリカイツブリ・カワウ・コガモ・カルガモ・オナガガモ・オオバン・コサギ
- ・ダイサギ・アオサギ・ユリカモメ・セグロカモメ・セグロセキレイ・ハクセキレイ・タヒバリ・イソシギ・トビ・チョウゲンボウ・ノスリ・ミサゴ・キジバト・ドバト・ヒヨドリ・モズ・ジヨウビタキ・ツグミ・シジュウカラ・ホオジロ・アオジ・カシラダカ・ムクドリ・カワラヒワ・スズメ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・カワセミ・クイナ

めずらしい花見つけた!



白い花のホトケノザ

今年の冬は寒い日が続きましたね、3月になってようやく春めいて、暖かい日の陽だまりには春の花が咲き始めました。青いオオイヌフグリ、紅紫色のホトケノザなどが春一番乗りで咲き誇っているのを見るとその華やかさに頼もゆるみます。ホトケノザの濃い紅紫色は大好きな色ですが、先日散歩の途中で真っ白なホトケノザをみつけました。

実は昨年春にも同じ場所で数株咲いているのを見たのが、白花の個体は生命力が弱いことが多いため、来年はみられないだろうなと思っていたのです。ところがどっこい、今年は増えていました。

場所は野川の川岸。甲州街道と野川が交差する上流側、馬橋から上流を見て右側の岸です。紅紫色のホトケノザに混じって純白の花が、小さな塊状に点々と咲いています。きれいな花ですからぜひ見てください。野川の川岸には七中の向かい側からと、下流の京王線をくぐった先の公園の横から降りられます。(石森 佳子)

若葉緑地の会

1月13日(日) 晴れ 参加者12名

新年早々にも関わらず、12名のメンバーが集合、桜広場を中心に活動を行いました。活動は、今年で5年目に入ります。当初は手探り状態でしたが、今は活動にも慣れ、各自が自主的に動けるようになりました。

1月24日(木) 晴れ 参加者2名

1月14日の降雪による緑地の被害状況を確認。枝が折れたり、幹が裂けたりした樹木が十数本ありました。杉や高木の下に生えた常緑樹は幹が細く、また、冬でも葉が落ちず、雪の重みに耐えかねたと思われる。都会緑地は放置せず、適度な間伐で緑地を健康に管理していくことが大切です。



降雪で折れたシラカシ



実生のコナラの保護柵の補修



芽吹いた水仙

2月10日(日) 晴れ 参加者12名

青空広場の中央に積まれていた間伐材(子供の悪戯か)の後片付けと1月14日の降雪で枝や幹の折れた木の間伐を行う。青空広場の実生のコナラが40cmほどに成長してきました。無事に成木になるように保護策を補修する。桜広場にフキノトウと水仙が芽吹いていました。

2月21日(木) 晴れ 参加者4名

第一広場の土留の横木の修理、雪害で市が伐採した南広場の伐採木の整理、アズマネザサ刈り、落葉掃きを行いました。(住田)

若葉の森3・1会

2月3日(日) 晴れ 参加者8名

今年最初の活動日(1月は休み)。第1緑地を主体に作業しました。

1月14日の雪の重みで折れた小枝や落ち葉の後始末を行いました(調布市の大枝撤去に感謝)。落ち葉かきに小学生も飛び入り参加、通路が歩きやすくなりました。

また、落ち葉溜めの準備、中ほどの斜面通路に横木で階段を設置(継続)、土留めの補修も行いました。

2月24日(日)

ちょうふ環境市民会議交流会に参加。ポスター展示で活動紹介と参加者募集を行いました。(N&K)



子どもも落葉かき



落葉溜め準備中



雪で折れた枝が散乱



ヤブニッケイ 葉を折るとニッキの香り



斜面通路に横木

交流会ポスター

人間・樹林の会

1月20日(日) 晴れ 参加者11名

冬の方形枠調査を実施。講師がお休みだったので、全員で調査した。新しく雑木林塾卒業メンバーが参加。14日の大雪でマテバシイ・ツバキ等が折れていた。自然の威力に驚く。2月に片づけることとする。民家との柵が壊れている場所もあり市へ連絡。落ち葉だめ周辺の片付け後、トン汁でお楽しみ会をしました。

花は、サザンカ。実はマンリヨウ、センリヨウ、ヤブラ

ン、ヤブミヨウガ。鳥はヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、シロハラ。



フェンスを壊すツバキ



2月17日(日) 曇り時々晴れ

子ども野鳥観察会の後、1月に折れたマテバシイ・ツバキを伐採の保全活動を行った。葉と枝にわけ、細い枝はそだ柵用に利用する。ルリビタキの♀を観察できた。観察会后、人がいなくなり、暖かくなってきたためか鳥たちの活動が活発になった。

花は、サザンカ・ツバキ。実は、アオキ。(安部)



カニ山の会

1月12日(土) 晴れ 参加者6名

新年の活動にあたり、最初に安全祈願を実施した。大木の下にお神酒とお米、塩、そしてノコなどの道具を備えてお参り。

その後は東樹林の西側階段入り口付近の、通路沿いの柵を補修。柵の杭は、調布市から支給された材木を活用した。ここ

はカブトムシなどを子ども達が捕りに来るよう根元の土が掘取られ下草が荒らされることが多い。



作業終了後は、キャンプ場で懇親会を実施。竹を切って酒器にしたものが正月らしさを演出してなごやかな新年会となった。

2月8日(土) 晴れ 参加者5名

冬場の草が少ないときは笹刈りがしやすい。年末に刈った下段の笹刈りの続きを行った。

またコナラの枝が折れて高いところでひっかかっているのが以前から気になっていたが、今回リーダーが脚立とロープで登って無事に落とすことができた。(鍛冶)



2.17 人間の森で子ども野鳥観察会



人間地域福祉センター駐車場にて受付、21名の参加者（そのうち子ども7名）があった。里講師から双眼鏡の使いかたや図鑑ノートの使用方法の説明を受けた後、人間一丁目樹林地へ移動。樹林地では「人間・樹林の会」の紹介のあと、「リス

ニング探鳥」で耳を慣らし、ツバキの森でメジロ・シジュウカラ・ヒヨドリ・ハシブトカラスを見つけた。N.T.T研修センター崖線では、ムクドリ

の幼鳥をじっくり観察。カラ類の混群やツグミを観察し子どもたちも楽しんでた。小学生低学年の親たちが熱心だったこと、樹林の会メンバーも初めての観察会で興味もわき、楽しく事故なく終えることができた。

人が帰り静かになった観察会終了後、めずらしくルリビタキも見ることができた。（安部）



【見られた鳥】ヒヨドリ・メジロ・ツグミ・シロハラ・エナガ・コゲラ・シジュウカラ・ムクドリ・シメ・ハシブトカラス・ハシボソカラス・オナガ・ルリビタキ。



ムクドリ

環境保全団体・市民の交流会

〜 掘げよう！ 楽しもう！ 環境市民活動〜

2月24日、あくろすホールに於いて環境保全活動にかかわる団体・市民52人が一堂に会して交流。「里山をモデルに多様な人びとが集う場を」と題した講演が行われました。野川や崖線樹林で活動をしている12グループも一年間の活動内容をパネル展示しました。「平成24年度の雑木林塾修了式」も行われ、これからの活躍が期待されます。

※このパネル展は4月以降市内の公共施設で巡回展示されます。

ちょうふの自然

みつけた！

◆1月12日 野草園のあたりをウロウロしていた、ツグミを数羽見かけました。それとジョウビタキ。あとはたくさんのカラスやオナガ、メジロ。そしてツグミくらいの大ささでウグイスのような色をした鳥。シロハラかな？（NK）



2.11 若葉緑地を訪れた鳥モズかな？



1.18 佐須の田んぼ脇でみつけたジョウビタキ。日向ぼつこの時間か、逃げない。



2月下旬、シジュウカラ用においてあるヒマワリの種を食べにくるシメ。太くて大きいクチバン。

◆1月下旬 タヌキらしき生き物を見たよ、という情報をいただいた。なんとか写真も撮れたということで、これは間違いなくタヌキ。

◆神代植物公園や多様性センターのあたりに何度か出沒したらしいが、一匹だけなのでどこからか迷子になってきたのか？

私のお勧め本



渡辺一史著 北海道新聞社刊 定価 2500 円

800 頁近くもある本だが最後まで興味深く読める。特に第2章の「タンチョウと私の『ねじれ』」は自然環境の保全活動をしている人には避けられない問題。

環境市民活動スケジュール

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接人間地域センターへ。

- 3 / 17 (日) 9:30 ~ 12:00
- 4 / 21 (日) 9:30 ~ 12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 3 / 9 (土) 10:00 ~ 12:00
- 4 / 13 (土) 10:00 ~ 12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 3 / 10 (日)・21 (木) 9:30 ~ 12:00
- 4 / 14 (日)・25 (木) 9:30 ~ 12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 3 / 3 (日) 9:30 ~ 12:00
- 4 / 7 (日) 9:30 ~ 12:00

先の4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

身近な川を見守る会

★野川のごきげんうかがい水生生物調査

- 3 / 23 (土) 9:30 ~ 12:00

野川大橋そば小公園へ直接集合川に入る方は長靴持参ください。

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15 に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

◆「自然だより」の置き場所：地域福祉センター、たづくり11F みんなの広場、調布市環境部（市役所8F）、市図書館10館、あくろす2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、めくもりステーション、野菜食堂みさと屋さん、横浜銀行調布支店など。置き場所&応援カンパ募集中です！

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆